

I. 追手門学院

1. ガバナンス機能の整備・充実

政府や自治体の助成・補助政策の変更、競合環境の激化、経済の悪化など、学校法人と各校園を取り巻く状況はより厳しさを増している。理事会と各校園との協力・連携関係を密にして、重要な課題・問題に取り組み、政策の立案・推進の機能化、迅速化を図っていく必要がある。

(1) コンプライアンスの徹底

学生自死に関する第三者委員会の報告を重く受け止めるとともに、再発防止策を実施していく。

- ① 「追手門学院倫理憲章」および「追手門学院教員倫理綱領」の周知・徹底
- ② ハラスメント関係規程および対応マニュアルの整備
- ③ コンプライアンスに関する部署の強化
- ④ 外部からの意見や検証を取り入れる制度の構築

(2) 大学ガバナンス改革検討委員会の設置

理事会のもとに大学ガバナンス改革検討委員会を設置し、大学の組織運営に関する課題やガバナンスのあり方を検討する。

(3) リスク管理体制の整備

ガイドライン、規程や学院・各校園の組織体制の基本的な整備を行ったが、マニュアルの整備、訓練・研修の実施、啓発活動の推進を行う。

(4) 監査機能の充実

三様監査(監事監査、監査法人監査、内部監査)の充実をより図るとともに、特に、業務監査の充実に努める。監査は単なる監視ではなく、学校法人の教育の品質保証と経営の公正性・透明性の確保を目指す。

(5) 執行役員制

執行役員制が導入されて4年目になる。成果と課題を検証し、改善に努める。

2. 財政施策（予算編成方針）

（1）効果的・効率的・集中的な資金投入

「追手門ビジョン 120」の具体化を目指して学生生徒等の募集の成功及び就職・進路の中身の充実を図り、効果的・効率的な資金投入を心掛けると共に①教学改革の推進・教育力の向上②園児・児童・生徒・学生支援の充実③募集力の強化推進④追手門ブランドの構築の4つの重点施策に集中的に資金投入を行う。

（2）経常的経費の支出抑制と事業のスクラップ&ビルド

事業の立案に当たっては、スクラップ&ビルドの観点に立って検討することにより、コスト上昇を吸収し、経常的経費の支出抑制（前年度比横ばい）を目指す。

（3）中期計画を反映した単年度の予算要求

・補正予算の実施

前年度決算を受けて明らかに変動する繰越関係科目の修正並びに、入学者の増減・人件費の増減等、大きく変動する項目のみを反映する補正予算を実施する。

・中期投資計画を反映した単年度の予算要求

特に多額の資金投入を伴う施設設備・情報投資・広報資金等については、中期投資計画概要を同時に提出することとし、その一環としての単年度予算要求とする。

・キャンパス用地の追加取得の検討

学院としての新たな発展の可能性を模索するため、キャンパス用地の追加取得を検討する。

（4）予算化された事業計画における補助金の積極的な確保

既に予算化された事業計画において、補助金対象となり得る案件については積極的に補助金獲得を目指し、外部資金の獲得を試みる。

3. 施設・設備の充実

（1）大学キャンパス整備

・無線 LAN（無線通信を利用してデータの送受信を行うシステム）の整備

- ・教室改修

普通教室の一部を視聴覚教室へ再整備する。また、机・椅子を更新し、地上デジタル放送化に伴う各教室の教卓操作を統一化する。

- ・省エネ対策に伴う改修

照明器具を更新する。

- ・安全対策に伴う改修

防犯・監視用カメラを増設する。

- ・老朽化に伴う改修

体育館高架水槽、消火ポンプ、排気ファンの更新を行う。

- ・防災対策

防災関連の備蓄用品等を充実する。

- ・その他

坂道の改修やスクールバス乗務員室を整備する。

(2) 中・高等学校キャンパス整備

「第2自主学习室」設置、交流スペース、「展示スペース」を充実する。

(3) 大手前中・高等学校キャンパス整備

南館の改修を行う。

(4) 小学校キャンパス整備

- ・中庭・運動場の改修
- ・送迎自動車引き込み線の計画

(5) 新キャンパス用地取得

駅近くに1万坪程度の用地の取得を検討する。

4. 組織・人事施策

(1) 組織の再編

将来的、計画的なブランディング戦略を重視し、経営戦略室および学長事務室の強化、広報組織の整備、学校評価・教員評価を担当する組織の充実を行う。

(2) 学校評価、人事評価、研修の推進

将来計画推進委員会答申に従い、学校評価、教員評価、研修制度の三位一体を目指す。学校評価を実際の学校運営に生かす取り組みを強化。教員評価は処遇連動を前提にしているが、制度の完全確立に関しては細部に渡る具体的な検討が必須。学院主導による学校経営、学校運営に係わる研修の実施。従来の取り組みで既に一定の成果があるが、各制度の有機性の追求が今後の課題。両中・高間での人事異動を更に推進する。

(3) 教職協働の推進

職員提案制度の推進、教育や各種企画において教職協働型、学生参加型の活動・事業の推進を行う。

(4) 職員人事施策

・事務職員人事制度の再構築

引き続き、事務職員人事制度の再構築に向けた検討を行う。本年度は新しい評価制度の運用を開始し、給与制度の中身についても確定させていく。

・事務職員研修制度

新しい人事制度との関連性を重視し、長期にわたる能力開発・人材育成が可能となる制度構築を行う。

・事務職員採用

年齢構成を考慮し、計画的に新卒・中途採用を行い、1割程度の人員増を図る。

・人員配置

事務組織における人員配置は、各部署の状況や、各校園の財政状況なども考慮し効率的に行う。

5. 学院ブランドの構築

(1) 教育改革

常任理事会のもとに学院教育改革検討委員会を設置し、心の教育、キャリア教育、国際理解教育及び自校教育を基軸とした学院の教育目標を定め、具体的な施策を検討する。

(2) 接続教育、一貫教育の検討

学院、各学校・園のブランディング戦略を進め、広報戦略を確立し、社会への学院、各学校・園の発信力を高める。追手門ブランドの中核となる内部進学者が減少しており、接続教育のあり方を見直して一貫教育も検討する。教育理念を共有化するとともに、自校教育の徹底を図る。

(3) 各学校・園連携による広報

特色を明確化して各組織で機能化を推進し、広報・募集に循環する進路結果を目指す。広報に関しては、各学校・園で連携強化し、事柄によっては一本化を図る。保護者(組織)、卒業生(組織)との連携を強化し、追手門ファミリーを実体化して学院ブランドを高める。

6. 地域貢献活動の推進

(1) 大阪城スクエアの活用の促進

大阪城スクエアを開設して4年目を迎える。これまでの3年間は順調に推移し、参加者数、使用頻度、企画数、内容もそれなりのものになった。地域での認知度も高まり、会場利用も増加して軌道に乗ってきた。今後は、キャリア開発部のより一層の活用等、大学関係の利用強化を目指す。特に募集・進路・広報の拠点化を検討する。

(2) 地域連携の強化

大学においては、茨木市、茨木商工会議所との3者連携協定に基づく事業の推進を図るとともに、北摂地域における存在意義を高めるために、地域連携、地域貢献の活動を強力に推進していく。そのためにリエゾンオフィスの強化を図る。

7. 記念事業の推進

(1) 大学創立 50 周年記念事業に向けて

2011 年に大学は創立 45 周年を迎えるが、記念事業を行い、50 周年へとつなげる契機とする。また 3 年目に入った国際交流推進年を重ね、各種の事業を広報・募集に生かしていく。

(2) 学院、各校園の記念事業に向けて

前年度に両中・高創立 60 周年記念事業が終了した。今後は 70 周年を目指して、歴史探査を深める方向である。70 周年に向けて、65 周年を中継地点にする。小学校に関しては創立 130 周年の中継地点として、125 周年を位置づける。幼稚園に関しては、大学 50 周年同様、45 周年を中継地点と考える。各 PTA、校友会、山桜会との連携強化を目指す。記念事業によってブランドを強化して、募集に反映させる。